第16回

子どもの権利条約フォーラム

2008 in みえ

ショラながろう 大切なわたし 大切なおなた のぞ

報告書



■開催日時

11月23日(日) 13:00~20:00・24日(振休) 9:30~16:30

■会場

●三重県庁講堂 ●アスト津 (みえ県民交流センター、アストプラザ)

[三重県開催のテーマ]
★子どもの権利条例づくり
★子どもの参画

★人権意識を深める機会に

大上段に権利を謳うのではなく、言葉だけで権利を語るのでもなく、一人ひとりの感性に権利の問題をおとしこんでいくのは、本当に難しいことです。しかしそれなくして、真の意味で権利が保障される社会の実現はあり得ないでしょう。

私たちは、子どもの権利条約フォーラムを三重県で開催するにあたって、個人の人権意識を深める機会と捉え、人権や権利に対する気運を高めることで「子どもの権利条例づくり」という社会基盤の整備につなげていきたいと考えました。それも一番権利意識が薄いといわれている子どもの参画によって。

勿論、子どもの参画と一口に言っても、決してたやすくないことは、十二分に承知しているつもりです。「子どものことを考えている」という思いこみとは裏腹に、子どもへの差別と支配をくり返している多くの大人によって、子どもの問題は仕切られ続けているのが現実ですが、その人たちと同様の間違いを犯さないことを肝に銘じて、子どもたちと共に学び歩みながら条例づくりに向かいたいと思うのです。

今、子どもたちに求められている横の人間関係、他者への思いやりや協調性、自己の確立も自尊の感情も、全て知識の学びではなく権利意識の醸成を土台にして初めて可能になることです。子どもの権利条例づくりへの参画は、子どもたちの権利意識への芽を必ず育てることにつながります。

本番の本日は、子どもたちが「生まれてきてよかったんだ」「ひとりぼっちじゃない」と思え、安心して全人的に成長できる権利醸成型社会を実現させる出発の日にしたいと願っています。

あの日「子どもの権利条約フォーラム 2008 in みえ」で当日パンフに私は上記の思いを綴らせていただきました。今も全く同じ気持ちで子どもたちと共に県内の一つでも多くの自治体に、子どもの権利条例づくりをはじめとして、子どもが全人的に豊かに成長できる社会基盤整備をしていきたいと思っています。

幸い三重県は知事がこども局を設置、子育てならぬ「子育ち」の概念を全面に揚げ何らかのかたちの条令づくりの意志を表明しています。又その方向をうかがい知る市町もあることから、ご一緒しながら夢に終わらせない可能性に向かって、2009年も「子どもの権利フォーラム・マタニティフェスティバル~子どもの権利は胎児から~」の実行委員会を始動させています。

第16回子どもの権利条約フォーラム 2008 in みえ 実行委員長 田部 眞樹子 第16回子どもの権利条約フォーラム 2008inみえに、全国各地からたく さんの方々にご参加いただき、盛会裡に 開催されましたことは、このフォーラム の共催者として大変嬉しく思います。こ れも、関係各位のご支援、ご協力による ものと感謝申し上げます。

このフォーラムに参画している自治体 にとりましては、子ども自身の意見・考 えを大切にし、子どもの権利について考 える機会を市民・団体・行政が連携して 一体となって創ることができ"協働"と いう手法での取り組みを体感できたこと は、貴重なすばらしい経験となりました。 「人権意識を深める機会に」「子どもの権 利条例づくり」「子どもの参画」の3つ で様々な視点から約15の分科会プログ ラムが開催され、私たち大人も子どもた ち自身も子どもの権利について、考える きっかけになったと思います。特に三重 県内の子どもを中心に 6,000 名以上集 められた「子どもの声」には、微笑まし い夢から大人社会への意見、友だち関係 の難しさなど日常生活の中で押しつぶさ れそうなありのままの子どもの姿に気づ き、また子ども会議では、フォーラムの 主役である子どもたちが気持ちをまっす ぐに伝えていただき、私たち大人は心に 響き感動しました。子どもたちは、次代 を担うまちづくりのパートナーです。子 どもたちとともに明日のまちを創ってい きたいと考えます。

最後になりましたが、次回開催される 富山県におかれましても盛大に開催され ることをご祈念申し上げ、共催者として のお礼のことばといたします。

津市長 松田直久

第16回子どもの権利条約フォーラム ●3 つのテーマ

1 子どもの権利条例づくり・・・・・・・・・・・・

チャイルドラインに入る子ども たちの声は様々ですが、その根底 を流れている共通項は、自己肯定 ができていない姿と主体の未確立 の問題です。人間は「安全」「自信」 「自由」の保障が当たり前に許され ていない限り、自分が自分らしく 成長することができないのだと、 彼達(彼女達)は教えてくれました。 それらの声は 12 才問題や 17 才問 題の根源が何処にあるのかという 疑問になり、人の育ちの第一段階0・ 1・2 才子育て子育ちの現場「ひろ ば事業しへと目は向いてゆき、本 腰を入れたいと熱い思いになって いきます。

自分を無条件に受容してくれる 愛や慈しみがあって、初め心する。 それがあっても分を大切に信頼がおけて安値にでするがでするがでするがでするがでするがでするがでするがです。 されていて自分が育まれている。 されていて自分が育まれていがきまれている。 されていないのでするが「としていがも」ことと思いては を生きにないるといかも「権利」を基本として。

子どもの権利意識の育ちが周りにいる大人次第である以上、大人の意識改革はどうしていけばいいのか。次の疑問が生まれてきます。地道にすべての事業を地域再生の手段にしていく。それも権利醸成型の新しい子ども観を広めていく

草の根運動のあり方で。現に私たちはすべての事業のつくり方をそのようにしています。しかし、それは非常に大事なことであっても1つの方法にしかすぎず、社会基盤整備には行政とのコラボレーションが必要になります。なぜなら基本となる条例づくりの現場だからです。

「子どもの権利条約フォーラム 2008 in みえ」の実行委員会に県行政のできるだけ多くの関係部署をはじめ、市町に於いても同じかたちで参加を働きかけてきたのは、県内すべての自治体に「子どもの権利条例」づくりをして、子どもが安全で安心して全人的に健やかに成長できる社会をつくっていきたいというでっかい夢があるからです。

夢の実現に近づける方法の1つ として、フォーラムの実行委員会 と平行して県行政に「子どもの権 利条例1づくりに関する協働事業 提案をして採択され、複数の行政 (県健康福祉部こども局こども未 来室、津市こども総合支援室、松 阪市福祉事務所こども未来課)と NPO とで公開検討会のテーブルを 囲んで話し合いを積み重ねてきま した。私たちが切望してやまなかっ たこども局を三重県が設置、知事 もことある毎に条例かそれとも憲 章とするかとしながらも、何らか のかたちにする方向性を示してい ることも追い風になって、津市も 子どもの権利条例づくりの方向を

すべての子どもたちが「生まれ てきてよかったんだ」と自分の存 在を実感できる社会に一歩でも近 づくために「子どもの権利条例! づくりと「オンブズマン制度」の 確立は今を生きる大人の責務と考 えていきます。使命感ともいえる 方向性と思いがあったからこそ取 り組んできた「子どもの権利条約 フォーラム 2008 in みえ | です。 今年度取り組んでいる「子どもの 権利フォーラム・マタニティフェ スティバル~子どもの権利は胎児 から~」で更に輪を広げる動きを 目下始動しています。実りある結 果に必ずつなげていく所存です。

第16回子どもの権利条約フォーラム ●3 つのテーマ

子どもの参画

本大会における子どもの参画は、 実行委員会への参加についてから 始まった。実行委員会は、「チャイ ルドライン24」実施組織が事務 局となり、県、市町行政や民生 員・主任児童委員、子どももに関す る機関、子育て支援や子ども支援 に関わるNPO、個人のみなさんに 呼びかけられ始まった。この時かられ始まった。無理に実行委員はいなかする ことを考えず、地域や団体の取り 組みの中での参画を考えていくことにした。

実行委員会で今の子どもの権利をめぐる課題を出し合い、4つのグループ会を作った。その一つである子どもの参加・参画グループ会での具体化が始まったとき、まず陥ったことがある。子どもが参加できる企画を大人がたくさん用

意しだしたことだ。最初の子ども の広場の構想は、こうしたとなる。次になる。次になる。次になる。次になる。次になる。次になる方を仕切り直したとたん、 実行委員の発想が止まっ月かの間、「主体とは?」「主体とは?」「主体とは?」「全体とは?」の音に任せるので行うことがもたちに任せるの中でといる。その中で、とをの企画や地位での取らさた。

そして、形になってきたのが、 当日の大人の立ち入らない「子ど も広場」や「ミニステージ」、子 どもが企画するエンパワメント ワークショップの取り組みの企画 であった。事前の地域の取り組み、 全体での集まりでも、大人が試さ れる場面をつくることができ、多くのことを学ぶことができた。

子どもサミットに関しては、当 初からファシリテーターに浜田進 士氏をお招きし、自分自身を通し た権利についての発信ができる関 係性を積み上げていた。このこと が、大会当日最初の企画であった 子どもサミットの子どもたちの率 直な自己開示、意見表明につながっ ていった。そして、大会そのもの を支配する子どもを主体とした空 気を生んでいくことになる。大会 最後の企画である発信の時間での 子どもたちのパフォーマンスが、 実行委員会、関係団体、そして何 よりも参加、参画した子どもたち ユース達が力を得る(エンパワメ ント)ことができことを確信した。

3

人権意識を深める機会に

今日の社会の中で、子どもに対する虐待、いじめ、自殺、不登校の問題など、子どもを取り巻く環境はますます深刻化してきています。

今回子どもから大人までたくさんの方がこの"子どもの権利条約フォーラム"に参加し「子どもの人権」について、多くの分科会で体験したことや学んだことは、普段の生活だけでは得られないものが得られたと思います。

そこで、1つの自治体しか条例が 制定されていない現状の三重県内 で開催されたという観点からみてとても意義深いものがあり、「子どもの人権」について改めて考える良い機会となったといえるのではないでしょうか。

そして、三重県をはじめ多くの市 町や教育委員会がこのフォーラム開催にあたり共催、後援をし、実行委 員会へ参画したことで、自治体関係 者個々への"子どもの権利"、"子ども の権利条例づくり"に関しての意識 高揚につながったと思われます。

今フォーラムで、"子どもの権利"

が参加者をはじめとする多くの方々 に発信できたことで、私たち一人ひ とりの人権意識が高まり、社会全体 が積極的に関わっていくことが大切 であると再認識されたことはいうま でもないと思います。

今後は、今回のフォーラム開催で得た成果を元に、"子どもの権利"、"子どもの権利条例づくり"への機運を高め、個々の自治体が条例制定に向けた取り組みを推進されることを期待したいと考えます。

●子どもの声

6800 人の子どもたちの 声を集めて、分析

子どもたちの意志や気持ちを表現するために、 4つのテーマ「夢、今言いたいこと、未来の子ど もたちへ、自由」を決め、各地域の学校、幼稚園、 保育園、学童保育、地域の団体等へ働きかけてい きました。具体的な方法として

- ①子どものリレーメッセージノート
- ②子どもの森 (はっぱの形の紙にメッセージを書く)
- ③何でもメール (携帯を使い写メールとメッセージを送ってもらう)
- ④オレンジリボンツリー (三重県主催:子ども虐待防止推進事業)を提案していきました。

結果的に桑名地域から熊野地域まで 97 団体の 働きかけによって、三重県内約 6,800 人の子ど もたちの声を集めることができました。

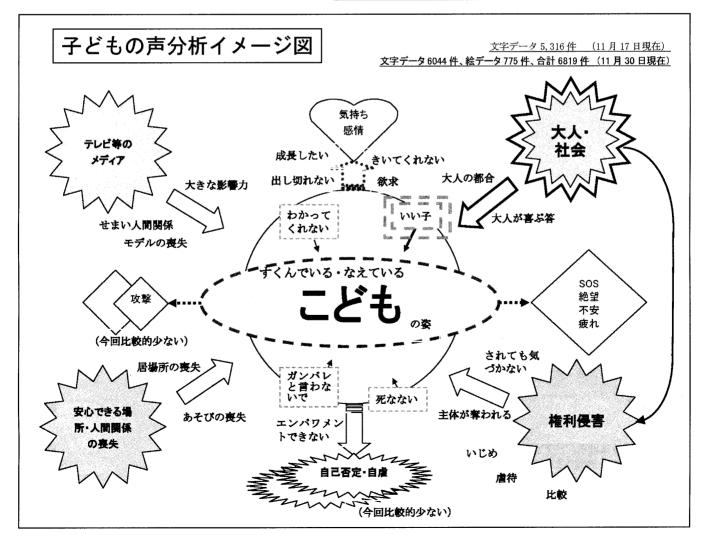
(声グループの報告から抜粋)



子どもの声集約 地域別・年齢別

平成 20 年 11 月 30 日現在

地域	未就学	小学生	中学生	高校生	その他	地域別合計
全域	0	0	0	0	500	500
桑名	2	55	1	0	10	68
四日市	0	516	17	1	172	706
鈴鹿	6	307	4	3	0	320
津	196	2,311	356	47	321	3,201
松阪	2	905	883	13	109	1,912
伊勢	43	24	0	0	1	68
熊野	0	11	0	0	33	44
計	249	4,129	1,231	64	1,146	6,819



全プログラム

オープニング全体会

11月23日13:00~14:30

会場/県庁講堂

★フリースクール三重シューレの 子どもたちによるバンド演奏

★講演「みんなで知ろう!こどもの権利 条約」(喜多明人)

■主催団体 実行委員会

①子どもサミット

11月23日15:00~17:00

会場/三重県庁講堂

対象(人数)/小学生以上(400)

■主催団体

「チャイルドライン 24」実施組織

②交流会

11月23日18:00~20:00 会場/アスト津3F交流スペース 対象/子ども・大人 参加費/18歳未満1000円 18歳以上2000円

■主催団体 実行委員会

③親育ち支援プログラム 「親なびワーク」

11月24日9:30~11:30 会場名/アスト津5F研修室B 対象/子育て中の親および子どもに関わる人

■主催団体

三重県健康福祉部こども局こども未来室

④子どもに寄り添う おとなのための講座

11月24日12:30~14:30 会場/アスト津5F研修室B 対象/18歳以上(30) 参加費 500円

■主催団体 実行委員会

⑤バリアフリークッキング・カフェ

11月24日10:30~12:30 会場/アスト津4F食工房 対象/10歳以上(車椅子大歓迎) 参加 費/500円

■主催者

Flower & L.U.I.International

⑥親子が共に育つ保育プログラム プレイセンター

11月24日9:30~14:30 会場/アスト津5Fギャラリー2 対象/1歳~未就園児・大人 参加費/見学無料 子どもの遊びの体験500円

資料代と相談 500円

- ●プレイセンター☆こどもスペース四日市 の実践風景の写真展示、ビデオ上映
- ●プレイセンター開設へのプロセスについてのパネル展示
- ●こどもの遊び体験の場
- ■主催団体

NPO 法人体験ひろば☆こどもスペース四日市

⑦エンパワメント・ワークショップ A 小学生による小学生のための ほめ合うワークショップ

11月24日9:30~11:00 会場/アスト津4F会議室1 対象/小学生(15) 参加費/300円

■主催団体

子育ち広場∴ドロップ in

⑦エンパワメント・ワークショップ B 1/気持ちを表現するワークショップ 2/ユースが受ける大人の相談コーナー ~子どもの気持ち・大人の気持ち~

11月24日11:00~12:30 会場/アスト津4F会議室1 対象/小学生以上の子ども(10) 大人(10)

■主催団体

(特)くわな子どもネット

⑦エンパワメント・ワークショップ C 一緒に話そう大切なわたし 大切なあなた

11月24日13:00~14:30 会場/アスト津4F会議室1 対象/中学生~高校生(20)

■主催団体

(特)松阪子どもNPOセンター

⑧子どもの権利条約入門ワークショップゲームで学ぶ子どものケンリー~ケンリってムズカシイ…!? ~

11月24日9:30~14:30 会場/アスト津4F会議室2 対象/小学生以上

■主催団体

子どもの権利条約ネットワーク

⑨ワークショップ「カンボジアの子どもたちと子どもの権利条約」

11月24日9:30~14:30 会場/アスト津4F会議室3 対象/小学生以上(30)

■主催団体

(特)国際子ども権利センター (シーライツ)大阪事務所

⑩ユース企画

「伝えようあなたの気持ち 〜伝えるってむずかしいよね〜」

11月24日9:30~14:30 会場/アスト津4F研修室A 対象/小学生以上

■主催団体

(特) 津子ども NPO センター

①親が変わる・教師が変わる・ それが出発点 -アドラー心理学育児のすすめ-

11月24日A9:30~11:30

B 12:30~14:30

会場/アスト津 4F 和室 対象/大人(30)

■主催団体

アドラー心理学学習グループ 「ルマー・キタ」

②子どもの権利条例づくりを 展望して

11月24日9:30~11:30 会場/アスト津4Fアストホール 対象/18歳以上(200)

■主催団体 実行委員会

13子どもの広場

11月24日9:30~14:30 会場/イベント情報コーナー、 研修室C、ミニステージ 対象/イベント情報コーナーと研修室 Cは子ども、ミニステージは子ども・大人

■主催団体 実行委員会

(4)語り合おう 子どもの本音 親の本音

11月24日9:30~11:30 会場/アスト津3F交流スペース 対象/子ども(20)・大人(20) オーディエンス(誰でも・30)

■主催団体 実行委員会

¹⁵チャイルドライン 夢メッセージ展

11月23日17:00~21:00 11月24日9:30~16:30 会場/アスト津4Fアストホールロビー 対象/子ども・大人

■主催団体

チャイルドライン支援センター 「チャイルドライン 24」実施組織

⑥子どもの声展示(子どもリレーメッセージノート・こどもの森をつくろう

・何でもメール)

11月23日13:00~20:00 11月24日9:30~16:30 会場/アスト津3F交流スペース 対象/子ども・大人

■主催団体 実行委員会

11月23		-30 15:00 15:30	16:00 16:30 1	7·00 17·30 18·00	18:30 19:00 19:30 20:
果庁講堂	13:00~14:30 オープニング全体会	15:00~17:0		7.00 17.30 18.00	19.00 19.00 20.
アスト津 1Fアストホール				17:00~21:00 〈ロビー〉 ⑮チャイルドラ	イン夢メッセージ展
アスト津 3F交流 スペース				(定)	0~20:00 ②交流会 ∰ 子ども・大人 200名 費 18 歳未満 ¥1,000 18 歳以上 ¥2,000
	13:00~20:00 ®子どもの) ⑰オレンジ	自 (展示) リボンツリー (展示)		18:00~20:00 ゆオい	ノンジリボンツリー (コンテスト)
	1日(振休)				
9 アスト津 5F (研修室B)	30 10:00 10:30 11 9:30~11:30 ③親なびり		12:30~14:30 (3:30 14:00 14:30 ④子どもに寄り添う の講座〈参加費¥500〉	15:00 15:30 16:00 16:
〈食工房〉	10:30~	12:30 ⑤パリアフリークッ	1000		CONTRACTOR
〈ギャラリー 2〉	9:30~14:30 ⑥親子が	共に育つ保育プログラム フ	プレイセンター〈参加賞	ŧ¥500>	
アスト津 4F 〈会議室1〉	⑦エンパワメント・ワークショッ 9:30~11:00 A小学生による小学生のための ほめ合うワークショブ (参加費 ¥300)	B-1 気持ちを表現するワーク: B-2 ユースが受ける大人の相	談コーナー C一緒に	〜14:30 話そう大切なわたし あなた	
 アスト津					
4F (会議室2)	9:30~14:30 ⑧子どもの	権利条約入門ワークシェ	ヨップ(昼休憩あり、途中参加	म	
〈会議室3〉	9:30~14:30 ⑨ワークシ	ョップ「カンボジアの子と	もたちと子どもの権利	利条約」 (星体をあり、途中参加可)	
〈研修室A〉	9:30~14:30 ⑩ユース』	上画「伝えようあなたの気	(持ち~伝えるってむ)	ずかしいよね~」	
〈和室〉	⑪「親が変わる・教師が A 9:30~11:30	変わる・それが出発点	B12:30~14:30)	economica de la composição de la composi
 アスト津 4F アストホール	9:30~11:30 ⑫子どもの権利条例づ	くりを展望して	12:30~14:30 ⑲「里親子シン	同時開催企画 ポジウム」	15:00~16:00 エンディング全体会
	9:30~16:30 (Dビー) (§	チャイルドライン夢メ	ッセージ展		
アスト津 3Fイベント情報 コーナー 5F研修室 C	9:80~14:30 ® 7 £6	の広場(実動)			
アスト津	9:30~11:30 ⑭語り合お	う子どもの本音・親の	D本音		
3F 交流 スペース	9:30~16:30 ⑯子どもの	プリボンツリー	(―ジノート●こどもの)	森をつくろう●何でもメール	

⑰オレンジリボンツリー コンテスト

11月23日18:00~20:00

展示は、

11月23日13:00~24日16:30 会場名/アスト津3F 交流スペース 対象/子ども・大人

■主催団体

三重県健康福祉部こども局こども家庭室

■企画運営

(特) 三重県子ども NPO サポートセンター

18団体展示ブース

11月24日9:30~16:30 会場/アスト津3F交流スペース

対象/子ども・大人 ■主催団体 実行委員会

19同時開催企画 「里親子シンポジウム」

11月24日12:30~14:30 会場/アストホール 対象/一般(250)

■主催団体

三重県健康福祉部こども局こども家庭室

■企画運営



講演「里親家庭で成長して」 (特)三重県子ども NPO サポートセンター 講師さくらネットワーク 高橋成貴さん



パネルディスカッション

分科会報告

①子どもサミット

主催者名

「チャイルドライン 24」実施組織 開催日時 11 月 23 日 15:00 ~ 17:00 参加者数 347 人

パネラー: 中川大夢・竹内直人 ・中谷紀宏・浅井朋香

子どもファシリテーター: 浜田進士さん 内容

事前の4回の話し合いで、お互いの気持ちが出せるような安心の場を作りながら、自分の気持ちを話し合った。4回の話し合いでどこまで本当の気持ちが出せるのか難しいものがあると思うが、浜田先生のファシリテートのもと、ある程度の気持ちは出しあえたようだ。当日は「どのような結果になっても失敗はない、言いたいことを言おう」ということを確認しあい、自分が感じた権利について、自分を通した意見を舞台から会場に発信が会場の子どもたちの心に届き、たくさんの子どもたちから自分発信があった。

②交流会

主催者名 実行委員会 開催日時 11月23日18:00~20:00 参加者数 163人 内容

国際交流協会のご協力のもと、メキシコ・タンザニア・韓国・タイ・日本・ネパールの6カ国の料理が並び、当日参加者も増え大変にぎやかな交流会になりました。会場では、子どもサミットのパネラーを囲む輪ができ、ユースの交流が盛んに行われていました。また普段はなかなか食べる機会の無い料理も、参加者の方の興味を引いたようです。

③親育ち支援プログラム 「親なびワーク」

主催者名 三重県健康福祉部 こども局こども未来室 開催日時 11 月 24 日 9:30 ~ 11:30 参加者数 6 人

内容

県が作成した親育ち支援プログラム「親なびワーク」の説明と体験ワークをしました。

「短所と長所は裏表?!」では、短所を長所に言い換えることで、発想の転換を図り、人の持ち味を多面的とらえるワークをしました。同時に、自分を振り返りました。

「イライラの風船をコントロールしよう」では、それぞれのイライラやストレスを、風船をふくらませることで表現し、イライラの中身について、話し合いました。また、イライラやストレスで心がいっぱいになった状態を、割れる寸前までふくらませた風船で視覚的触覚的にイメージし、そんなときの対処法について考えました。それぞれのストレス解消法などについても話し合いました。

④子どもに寄り添う おとなのための講座

主催者名 実行委員会 開催日時 11月24日12:30~14:30 参加者数 32人 講師 浜田進士さん(子どもの人権ファ

内容

シリテーター)

大人が子どもに寄り添うとき、子どもを権利主体として尊重することが大切であり、子どもが自分自身でエンパワメントしていけるように支援することが要求される。子どもが生きていくために必要な権利が保障されているかどうか、欠けている部分に焦点をおいて支援されなければいけないという話のなかから、親・教員・地域それぞれがエンパワメントされるケア体制が同時に必要だということを話された。

また、川西市の子どもの人権オンブズパーソン制度について説明をうけた後、参加者が子ども・親・教員・子ども人権相談員の役割を体験した。その中で、気持ちのズレ、事実認識のズレが生じる時、

大切なのは双方の気持ちに焦点を当てて 聴くというであることで、決して子ども の訴えすべてが正しいと受け入れること ではないということを参加者が体験を通 して実感することができた。

⑤「バリアフリー クッキング・カフェ」

主催者名

Flower & L.U.I.International 開催日時 11月24日10:30~12:30 参加者数 10人 内容

アフリカ(タンザニア)出身のヤシンタさんを講師に迎え、日本との比較をしながらアフリカの食文化や子どもたちの生活をいっぱいおしゃべりしながらのクッキングでした。県外からの2人の参加者と車椅子やストレッチャーなどガイドヘルパーさんと共に障がい者の方4人を含む10人の参加者で、本場の珍しいスパイスを味わいながら楽しく交流できました。たくさん出来たサムサやビリアーニ、ジンジャーティーを交流スペースで販売してたくさんの方たちとも交流できて良かったです。

⑥親と子が共に自立する保育 の場プレイセンター

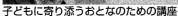
主催者名 NPO 法人体験ひろば
☆こどもスペース四日市
開催日時 11月24日9:30~14:30
参加者数 11人
内容

子どもの主体を大切にする保育の現場として「プレイセンター☆こどもスペース四日市」の実践とプレイセンター開設へのプロセスについて、写真・パネル展示とビデオ上映、こどもの遊び体験の場を再現しました。

「プレイセンター」はニュージーランドの保育システムのひとつで、親子がセットになってする共同保育の場とは違い、親が一人の人間として子どもの遊びをサポートする保育者となり、子どもの体験



OFFICE OF BAR COMMAN CHARLES





バリアフリークッキング・カフェ

の場であるため、パネル・ビデオの中では毎回の遊びの様子とともに、毎月の親の学びの場―子どもの主体を大切にするために、子どもの権利や男女共同参画・保育・遊び・救急法などの学習や話し合い―の様子などを紹介しました。

こどもの遊びの体験の場では、会場を使用する上での制限があり、遊びの一部ではありますが、プレイセンターの会員の子どもたちと参加者が、主体を大切にした遊びを実践しました。会員の子どもたちに刺激されて参加者の子どもたちも、絵の具や小麦粉粘土のよごれも気にせず遊びに夢中になっていました。

⑦エンパワメント・ワークショップ A 小学生による小学生のため のほめ合うワークショップ

主催者名 子育ち広場: ドロップ in 開催日時 11月24日9:30~11:00 参加者数 7人 内容

2年続けて「手塚千砂子さんによる自己尊重トレーニング」を受けている小学校高学年の子どもたち4名が、互いにほめ合うことを通して、子どもたち自身が自尊感情を高め合うことを目的に分科会を担当しました。事前には、自分たちで受けた手塚さんの自己尊重トレーニングを思い出しながら練習をしたり、4人の役割分担を決め、役割をしない時でも意見をだすことで互いにフォローし合うよう考えました。

当日は、からだの働きはどういうものがあるか話し合う。次に心の働きについても同様に話し合う。それから、自分のいいところを書き出して、言ってもらい、となりの人のいいところもほめるという段取りになっていました。

参加者のほめ日記(ワークショップの 最後に今日の自分のよかったことを書 く)には、みんなでほめあうところがと てもいいと思った。みんなえがおとか、 たのしいところがいい。と書かれていま すので、予定通りに進んだようです。

エンディングの全体会での彼らは、ありのままの自分を出して発表しました。「つまらんかったと言われたけど、司会がおもしろかったって言う子もいたからよかったです」とマイナスをプラスに変えてちゃんと自己肯定できていました。

①エンパワメントワークショップ B1 気持ちを表現する ワークショップ B2 ユースが受ける大人 の相談コーナー

主催者名 (特) くわな子どもネット 開催日時 11月24日11:00~12:30 参加者数 B1小学生7人 B2大人8人 内容

2つのワークショップはユースが企画 し、ファシリテーターも担当した。

B1 は「安心して気持ちを出せること」「感じ方の違いを認め合うこと」を体験することを目的に、〈気持ちを表す言葉〉を書き出して〈気持ちの木〉を作ったり、1つの事例(みんなの前でころんだ時どんな気持ちがするかな?)に対してどんな気持ちになるかを出し合った。

B2 は私たち子どもの気持ちをわかってよという思いから生まれたワークショップ。参加者が、事例(子どもが学校に行きたくないと言った時など)に沿って子ども役・親役で会話をするプログラムを通し「相手の話を聴くこと」と「互いの気持ちに気づくこと」の体験をした。また、こんな時の子どもの気持ちがわからないという大人からの質問をユースが受けた。

2つのワークショップは、ユースが学校や親・友だちのことについて話し合い、気持ちを出し合う中からやってみたい内容が生まれた。つくり上げていく過程を大切にし、何度も話し合いを重ねプログラムをつくっていった。ユースたち

が、当日会場には大人のサポートはいらないと言い、自分達でその場の責任を持つこととなった。直前まで参加者が 0 に近かったことに対して、分科会を成立させる責任について話し合い、会場でチラシの配布と声がけを行なった。関わったユースたちにとってもエンパワメントの場となった。

⑦エンパワメントワークショップC 一緒に話そう大切なわたし大切なあなた

主催者名 (特)松阪子ども NPO センター 開催日時 11月24日13:00~14:30 参加者数 15人 内容

このワークショップは、「お互いの違いを認め合うこと」をテーマに、ユースが企画しました。

7回の実行委員会でたてた企画を、松阪地域での事前の取り組みとして『中高生トーク合宿』をする中で、初めて顔を合わせる参加者が安心して気持ちを出せるにはどうすればよいか、またお互いの話を聴くためにはどうすればよいかなどを大切にしながら進めました。

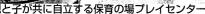
当日もユースがファシリテーターを担当し、「自分が幸せだと思うこと」をカードに書いて出し合うゲームをもとに、15名の参加者と幸せについて話し合う中でお互いの気持ちの違いにも気付きました。自分たちの納得できるものを時間をかけて創り上げたことで、関わったユースにとってもエンパワメントの場となりました。

⑧子どもの権利条約入門 ワークショップ

ゲームで学ぶ子どものケンリ ~ケンリってムズカシイ…!?~

主催者名 子どもの権利条約ネットワーク 開催日時 11 月 24 日 9:30 ~ 14:30 参加者数 15 人







小学生による小学生のためのほめ合うワークショップ

内容

「権利」と言われると『固い!』『難し い!』という印象が多いですね。でも、 子どもでも、おとなでも、「権利=人間 としてあたり前のこと」として保障され て当然です。

この分科会では、自己紹介から始まり、 複数のアクティビティ(子どもが写った 写真から「その子の願い」をイメージす る、世界が「10人の村」だったらを体 験する、など)を通じて、「権利=人間と してあたり前のこと」を体感していただ きました。

小さな問いかけから、あるいは、日常 生活を振り返ることを通じて、自分自身 が感じている権利意識を確認したり、権 利を身近に感じられたり。そんな"気づ き"の時間となれば、との思いで分科会 を運営しましたが、どうだったのでしょ うか。

小学生も多数参加してくれました。全 体的に年齢関係なく、和気あいあいと楽 しみながらの分科会となりました。

⑨ワークショップ「カンボジアの 子どもたちと子どもの権利 条約」

主催者名 (特)国際子ども権利センター ・シーライツ大阪事務所

開催日時 11月24日9:30~14:30 参加者数 15人 内容

部屋の机のぐるりに児童労働(働く子 ども) の写真を展示して、午前、午後と 2回のワークショップをしました。

カンボジアでは多くの子どもたちが、 学校へ行かずに働かざるをえない状況が あり、良い仕事があると言われれば、親 は子どもを遠いところまで出稼ぎに行か せることが多い。そんな中で、子どもの 人身売買が行なわれ、子ども買春が行な われる。そうした場面をカンボジアの風 景や子どもたちの映像、簡単なロールプ

レイを通して見てもらい、条約カードを 使って子どもの権利条約と子どもの権利 について、一緒に考えました。またその ようなカンボジアの子どもたちを守るた めに活動するNGOの取り組みについて、 日本からの観光客の重要性について紹介 しました。参加者は大人も小学生も、大 学生も、一緒に頭を寄せ合って子どもの 権利ってなんだろう、子どもの権利を守 るためにはどうしたらいいんだろうって 考えました。

⑩ユース企画

「伝えようあなたの気持ち ~伝えるってむずかしいよね~|

主催者名 (特) 津子ども NPO センター 開催日時 11月24日9:30~14:30 参加者数 39人 内容

ユース自身で企画提案から具体化ま で、すべて徹底した話し合いのもとに進 めてきた企画です。「アサーティブ」に こだわりながら、ひとりひとりの意見や 気持ちの違いを認め合う話し合いを重ね てきました。

途中具体化を進める中で、「アサーティ ブ」に対する認識の違いが明確になり、 再度スタート地点に戻って目的を確認す るための時間をかけた話し合いを持つ場 面もありました。

毎回の集まりそのものが企画者のユー スにとって、意見を主張するのではなく、 相手を尊重して意見の違いを認め、伝え 合う「アサーティブトレーニング」の場 となってきました。

当日は、午前中は寸劇を題材にした「ア サーティブについてのワークショップ」 を、午後は「テーマ別(学校・家族・恋 愛) のグループディスカッション を行 いました。多くの方に参加していただき、 気持ちを出し合う場になりました。

今回の取り組みでは、企画者として全 員が細部に渡って意思確認をし合いなが

ら、企画全体に責任をもてたことと、当 日進める中で参加者から頂いた意見や感 想でさらに学びの場になったことが大き な成果です。

印親が変わる・教師が変わる ・それが出発点

-アドラー心理学育児のすすめ-主催者名 アドラー心理学学習グループ 「ルマー・キタ」

開催日時 11月24日

A9:30 ~ 11:30 B12:30 ~ 14:30 参加者数 A25 人、B26 人 内容

アドラー心理学の育児プログラムに基 づく学習分科会を開催しました。24日 の午前午後それぞれ2時間ずついただき、 午前は「育児の目標」午後は「子どもの 話を聴く」というテーマにしました。

アドラー心理学のでは子どもたちが 『自立する』『社会と調和する』行動をと る人になってくれるよう、『私には能力 がある』『人々は仲間だ』という心理面 の信念を持ってもらえる育児を目指して

午前午後共に、この目標に向かって子 どもへの援助ができるおとなになるため にはどうしたらいいか、を話し合っても らいました。参加者のみなさんには、活 発な意見交換をしていただき充実した分 科会になりました。ありがとうございま した。

12子ども権利条例づくりを 展望して

主催者名 実行委員会 開催日時 11月24日9:30~11:30 参加者数 220人 内容

前半は山梨学院大学法科大学院教授 荒 巻重人さんと早稲田大学教授 喜多明人さ んに、日本各地の子どもの参画を含む条 例づくりの事例を紹介していきました。



子ども権利条例づくりを展望して



子どもの広場スタンプラリーに挑戦しよう!



語り合おう子どもの本音親の本音

後半は、将来の展望としての「子どもの権利条例」づくりを、三重県・津市・ 鈴鹿市の担当者が、議員立法で「子どもの権利条例」を制定した名張市の担当者が、現在の状況を述べたあと、会場との意見交換もし、有意義な時間を持つことができました。

③子どもの広場 スタンプラリーに挑戦しよう!

主催者名 子育ち広場:ドロップ in 開催日時 11月24日9:30~14:30 参加者数 33人 内容

子どもたちだけでするというところになかなか大人が立ちきれませんでした。当日子どもたちが出来るように話し合いや、準備をしておかねばと、今から考えると大人の側に力が入っていました。当然、話し合いは大人主導です。子どもたちでは話し合いができないだろうと勝手に思い込んでいました。短時間で話し合って作らなければいけないのだからという大人の勝手な論理が働いていました。それでも、子どもたちは自分の意見を年令の大きい小さい関係なく、よく言えるようになって来ました。ただただ子どもたちの力です。

当日もダンボールを運び入れる作業は子どもたちだけでは無理、大人がして当然!と思っていました。それを、他の人から指摘されたのです。ありがたいことでした。大人たちは飛びのきました。

子どもの世界の始まりです。まず、ダンボールで迷路を作ってそこでスタンプラリーをするという当初の計画は、案の定たちまちなくなったようです。ダンボール遊びやゴムてっぽう遊びののち、紙をこまかく裂いて花吹雪を散らすという楽しい、楽しい取り組みになってみんな大満足でした。参加費を徴収する係りの1年生の女の子は、「私の係りだから」と他を寄せ付けずがんばりました。エンディングで皆さんに一人ひとりの声を聞いてもらえてなお、大満足!

(4)語り合おう 子どもの本音 親の本音

主催者名 子どもの権利条約フォーラム 2008in みえ実行委員会 子育ち支援グループ

開催日時 11月24日9:30~11:30 参加者数 56人 内容

交流広場をパネルで区切って半円形の 広場を作り、カーペットを敷いて床に座 れるようにし、前にクリスマスツリーの ようなオレンジリボンツリー (子どもについての子どもの声や大人の声をオレンジのリボンに寄せ飾った虐待防止の取り組み)を飾り、雰囲気つくりをしました。心配していた参加者は当日になって会場ぎっしりになり、身動きできないくらいでした。

小学生の子どもたちと、親の立場の 大人、オブザーバー、オーディエンス、 全員が参加しての40分ほどのワーク ショップで、参加者の気持ちが和らぎ、 場が和やかになりました。その後、コー ディネーターから好きな食べ物、毎日の 洋服の選び方など日常的な話題から始ま り、お休みの過ごし方、自分の好きなと ころなどいくつかのテーマが出され、子 どもの気持ち、親の気持ちを出し合いま した。

型にはまりがちな大人に比べ、子ども たちは比較的のびのびと自分の気持ちを 話し、日頃一緒にいてもなかなか子ども の本音を聞く機会の無い様子の大人にい ろいろ発見があったようです。

チャイルドライン 夢メッセージ展

主催者名 チャイルドライン支援センター 「チャイルドライン 24」実施組織 開催日時 11月23日17:00~21:00 11月24日9:30~16:30 参加者数 こども105人、おとな343人、 総数448人

内容

チャイルドラインを広く一般の方々に 知っていただき、ご理解していただきた く、タレント・歌手・俳優・スポーツ選手・ 芸術家など、各界で活躍されている皆 様から子どもたちへ、心あたたまるメッ セージを絵馬に書いていただきました。

今回は99点展示させていただきました。夢メッセージ展を開催するにあたって、各実施組織からも地域の方々に働きかけをして、40点程の絵を展示させていただきました。アストホールのロビーでゆったりとした空間は、時間をかけて見ていただくことができ、チャイルドラインの広報も充分できたと思います。



チャイルドライン夢メッセージ展

オレンジリボンツリー展示 &コンテスト

主催 三重県健康福祉部 こども局こども家庭室

企画運営 (特)三重県子ども NPO サポートセンター

開催日時 11 月 23 日 13:00 ~ 20:00 11 月 24 日 9:30 ~ 16:30

内容

「児童虐待防止月間」にちなみ、三重 県内各地域の団体から集まった 26 本の 「オレンジリボンツリー」がオープニングの時には、三重県庁会場に、夜には交流会の会場に飾られました。ツリーに飾られたリボンには、子どもに対するメッセージや子どもの気持ち、大人の気持ちが書かれていました。両会場で、参加者による人気投票があり、交流会の会場では、審査員による審査もあり入賞者が決まり、発表と表彰式が行われました。

同時開催企画 「里親子シンポジウム」

主催 三重県健康福祉部 こども局こども家庭室 企画運営 (特)三重県子ども

企画運営 (特) 三重県子ども NPO サポートセンター 閉 催 口 時 11 日 24 日 12:30 ~ 1

開催日時 11月24日12:30~14:30 参加者数 160人 内容

里親制度の普及啓発を目的とし、「子 どもの権利条約フォーラム in みえ」と同 時開催となりました。

内容は、主催者から里親制度の概要についての説明、元里子である講師により 里親家庭で成長し自立する子どもたちの 現状を語った講演会、元里子や里親によるシンポジウムが行われました。それぞれに体験談をもとに、思いが語られた催 しだった。県内各市町の福祉関係や教育 関係部局、民生委員などへの参加の働きかけをし参加整理券を発行しました。

里親制度については、まだまだ、知らない人も多く、地域の人たちがきちんと理解することによって、里親のもとで暮す子どもたちが安心して成長できることが参加者に理解されたようでした。

子どもの権利条約の第20条「家庭環境を奪われた子どもの養育」に子どもには保護・援助を受ける権利があることがうたってあり、親の病気や死別、虐待など様々な理由で親と生活できない子が里親家庭で養育されることは当然の権利であることに気づかされたシンポジウムでした。